

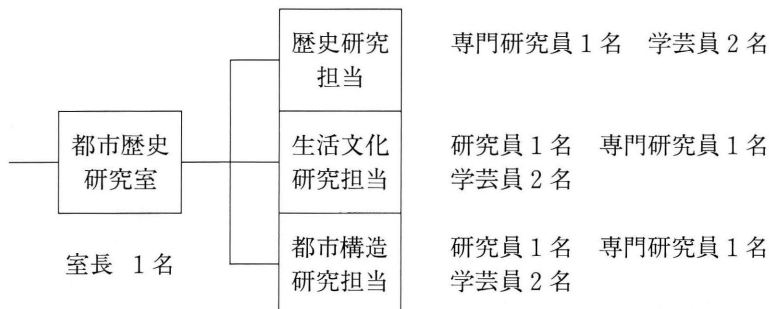
# 都市歴史研究室概要

平成7年4月12日現在

1. 博物館の調査研究		員図書室へ配架。
(1)江戸東京博物館の調査研究	平成5年4月1日	専門調査員1名着任。 (平成6年6月30日まで)
江戸東京博物館では、資料の収集・保管・展示・普及の各分野にわたり、それぞれで調査研究を行い、成果を事業全般に反映している。 (「江戸東京博物館要覧」1995)	9月	平成4年度分基礎調査(江戸東京関係研究文献調査)委託成果品製本。供用開始。
(2)都市歴史研究室の設置目的	10月1日	専門研究員3名着任 (平成6月3月31日)。館の研究体制の検討作業開始。
都市歴史研究室は、江戸東京学の研究センターとして、江戸東京の歴史・文化・生活に関する有形・無形の資料を対象に調査研究を行い、博物館活動の基礎を支えている。また、その成果を広く公表し、都民の知的要求に応え、学術および文化の発展に貢献することを目指している。	平成6年3月31日	「調査報告書」第1集「東京湾変遷模型原図」刊行。
2. 都市歴史研究室のあゆみ	4月1日	研究員3名着任。再雇用1名着任。
昭和61年7月	4月27日	研究会第1回開催。
「東京都江戸東京博物館建設基本構想」が発表され、研究の方向性、研究室の設置の方向が示される。	6月29日	研究体制検討全体会議開催。
平成3年度	9月	「研究報告」用論文公募。
平成4年4月1日	平成7年2月1日	公募による専門研究員3名着任。
平成4年度予算案作成。「基礎研究」「一般研究」承認される。	3月31日	「調査報告書」第2集「ヤミ市模型の調査と展示」刊行。
都市歴史研究室発足。学芸員3名配置。(開館までは展示支援をする。室長は暫定措置として事務局長が兼任)	4月1日	専任の室長着任。
7月1日		専門研究員3名着任。 (平成5年3月31日まで)
この年度		研究用図書購入。職

### 3. 都市歴史研究室の人員配置

定数 (12名)



現員 (11名、兼任 2名、再雇用 1名)



### 4. 都市歴史研究室の事業

#### (1)共同研究

##### 目的

江戸東京の都市としての形成や発展過程について、歴史、生活文化、都市構造の3分野から総合的なテーマを設定し、当研究室を中心に外部の研究者や研究機関と共同で研究に取り組む。歴史・考古・民俗・美術・文学・建築・社会・地理など、様々な学問の専門的方法を取り入れた学際的な研究をめざし、共同の資料分析やフィールド調査を実施するとともに、随時研究会を開催して研究の交流と深化をはかる。

研究成果は、研究紀要に論文を掲載し、講座、シンポジウムの開催、常設展示への活用、企画展示の開催など都民に分かりやすい形で公開し、都民の教養、学術および文化の発展に寄与することを目的とする。

#### 平成7年度事業内容

- ①石井良助コレクションの総合的調査研究 歴史研究担当
- ②幕末維新期における江戸東京学の歴史・文化の変容に関する総合研究 生活文化研究担当
- ③安政大地震と関東大震災の災害及び復興に関する比較研究 都市構造研究担当
- ④江戸東京学の現状と課題 全体担当

#### (2)一般研究

##### 目的

一般研究は、江戸東京の都市としての形成や発展過程を、歴史、生活文化、都市構造の3分野から専門的なテーマを設定し、当研究室の職員を中心に江戸東京学の個別具体的課題に取り組む研究である。

各自課題を掲げて、計画的にその研究に携わるとともに、研究会の場において研究報告を行い、学芸員の

資質向上に役立て研究の深化をはかるとともに、その研究成果は研究報告への論文掲載、展示や講演会などの博物館事業への活用、研究員・学芸員の日常的な教育普及活動を通じて広く都民に公開還元していく。

研究会議で次のテーマが承認された。

- ・ 関東の醸造業と江戸商業  
研究員：林 玲子
- ・ 幕末の米穀市場と金融政策  
研究員：北原 進
- ・ 都市の民俗音楽の実態研究  
研究員：小島 美子
- ・ 武州豊嶋郡江戸庄図の基礎研究  
学芸員：近松 鴻二
- ・ 享保期における狩野派画論の研究  
学芸員：畑 麗
- ・ 今戸焼の総合研究  
学芸員：小林 克
- ・ 江戸名所絵にみる生活風俗と象徴表現に関する研究  
学芸員：鈴木 章生

### (3)基礎研究（文献調査委託）

#### 目的

江戸東京に関する資料の基礎的、学術的な調査・研究を行うことを目的とし、江戸および東京の歴史文化に関する研究文献の調査分析、館蔵資料の調査研究、失われゆく都内の歴史・文化・産業に関する資料や事業等の調査研究、地方所在の江戸東京に関する資料の調査分析を行う。

これらの調査研究を通じて、江戸東京に関連する資料の学術的な分析を進め、資料や文献を中心とした情報を広く都民に公開し、基礎的な研究情報の蓄積を目的とする。

\*調査内容は、資料編1参照

### (4)「研究報告」「調査報告書」の刊行

江戸東京博物館に所属する職員の研究成果を発表し、広く都民に分かりやすい形で公開するために「研究報告」ならびに「調査報告書」を発行する。研究室では共同研究、一般研究と館職員の研究を紀要にまとめ、

基礎研究や展示関連調査の報告を調査報告書にまとめる。館職員の博物館活動を通じて得られた新しい成果をいち早く文字化して、都民の歴史・生活・文化に関する知的教養のニーズに応えるとともに、江戸東京学進展の基盤とすることを目的とする。

#### ア.「研究報告」の刊行準備

江戸東京博物館での研究成果を公表するため「研究報告」を刊行することとなり、論考を公募した。11件の応募があり、平成7年度の刊行を目指し、編集作業を行った。

#### イ.「調査報告書」の刊行

常設展示の大型模型製作に伴う調査研究の成果を「調査報告書」として、次の二冊を刊行した。

- ・ 第1集「東京湾変遷模型原図」
- ・ 第2集「ヤミ市模型の調査と展示」

### 5. 研究会の開催

江戸東京博物館の学術的水準と博物館技能の向上を図るため、館職員の発表を中心とする研究会を27回開催した。

\*実施状況は後掲

### 6. レファレンス対応

都市歴史研究室で受け付けた諸問い合わせは、117件あった。内訳は、歴史一般104、資料について7、その他6となっている。内容は、江戸および江戸城や江戸の生活、自家の家系に関するものが多い。質問者は一般の方が7割、放送・出版等のメディア関係が3割となっている。

### 7. データベースの作成の基礎作業

江戸東京に関する研究推進のため、研究用図書データベース化、江戸東京の名所大名・旗本に関するデータなどのカード化を行った。

## 資料 1

### 都市歴史研究室研究文献調査委託項目

平成 4 年 度
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 1970年代の都市江戸研究の成果</li><li>2. 1980年代の都市江戸研究の状況と課題</li><li>3. 江戸東京に関する雑誌の系譜とその特徴</li><li>4. 江戸東京関係研究支援システム開発のための資料収集とその分析</li></ol>
平成 5 年 度
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 1950年代の都市江戸研究の成果</li><li>2. 1960年代の都市江戸研究の状況と課題</li><li>3. 都市江戸研究に関する論文リストの作成及び主要論文の収集（1950年代～1980年代）</li><li>4. 江戸地廻り経済研究の動向</li><li>5. 江戸職人に関する研究の成果と課題</li><li>6. 都市江戸に関する民俗学的研究の成果</li><li>7. 東京を中心とする自由民権運動の研究史</li><li>8. 東京における同和問題の研究史</li><li>9. 東京と文学の関連をめぐる研究史</li><li>10. 都市東京の建築及び都市史に関する1980年代の研究成果</li><li>11. 都市東京に関する社会学的研究史</li><li>12. 終戦直後における東京生活の史料及び研究史</li></ol>
平成 6 年 度
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 1920～40年代における都市江戸研究の成果</li><li>2. 都市江戸研究に関する論文リストの作成及び主要論文の収集（1920～1980年代）</li><li>3. 中世江戸に関する研究</li><li>4. 都市江戸の美術史的アプローチに関する研究動向</li><li>5. 従来技術から近代産業への展開に関する研究史</li><li>6. 江戸東京の市内水運に関する研究の成果と課題</li><li>7. 東京市・府・都の統計研究に関する研究</li><li>8. 東京を調査・記録した雑誌増刊号・特集号の内容と傾向</li><li>9. 都市東京に関する社会学的な研究</li><li>10. 都市東京の建築及び都市史に関する1950～70年代の研究成果</li><li>11. 終戦直後における東京の住宅事情の資料</li></ol>